SAとPA特徴競う

高速道路に欠かせないサービスエリア（SA）やパーキングエリア（PA）の各施設が、特徴を競っているようだ。九州でも「恋人の聖地」やカプセル入り玩具の自販機を100台以上設置するなど、立ち寄りたくなる施設が多い。その中でも、大分自動車道下り線の山田SA（福岡県朝倉市）は特異な存在。売りは「エコ」。省エネや節水などの最新エコ技術が詰まっている。（中川次郎）

大分自動車道下り線・山田（福岡・朝倉市）は最新エコ

高速道から山田SAの減速車線に入ると、異様な光景が目に飛び込んでくる。

のり面いっぱいに並んだ太陽光発電パネルだ。店舗などの建物部分と合わせると、その数4046枚。年間で、SA全体の電気使用量に当たる100万㌔時を発電する。

西日本高速道路は4年前に山田SAを大規模改良する際、二酸化炭素（CO_2）排出量ゼロを目指す日本初のエコSAとして、「環境保全」をテーマに据えた。

建物の天井や床の内側を通るパイプに冷水や温水を循環させ、室内を夏は涼しく、冬は温かく保つ放射熱空調システムを導入した。

さらに、自然の風の力で開け閉めできる換気窓を設置し、遮熱効果がある特別な窓ガラスにした。こうした環境や省エネ技術を約30件導入している。

太陽光パネルに節水トイレ

注目は男子トイレ。小便器の上面に手洗い器があり、流れ出る水がそのまま便器の洗浄水に再利用される。1回当たり0・5㍑の節水効果。10台設置されており、年間13万㌧の水が節約されるという。

TOTOと共同開発した「エコトイレ」は、全国の取り組みを対象に、環境負荷を軽減した商品に贈られる「エコプロダクツ大賞」の優秀賞に選ばれた。

12月中旬、家族旅行の途中で訪れた佐賀市の自営業光石浩二さん（41）は「数年前にはなかったので驚いた」と話す。

西日本高速道路によると、山田SAの環境技術は他のSAやPAに生かしていくが、同規模のSAを作る予定はなく、今後も特異な存在であり続ける。

取材を終え、レストランで名物チャンポンを注文すると、出てきたのは、割り箸ではなく洗って何度も使える箸。山田SAの「エコ」は徹底されている。本郷憲一郎支配人（49）は「地産地消もテーマに、地元の野菜や果物も豊富にそろえている。エコも買い物も魅力です」と話した。

九州の高速道路で特徴のある主なサービスエリア（SA）とパーキングエリア（PA）

エリア名（所在地）	特　徴
古賀SA上り線（福岡県古賀市）	西日本最大級の売り場、売上を誇る。2017年2月28日までイルミネーションが点灯する
基山PA下り線（福岡県筑紫野市）	スナックコーナーの「肉うどん」が有名。月に1万食を超える売り上げがある
広川SA下り線（福岡県広川町）	八女市周辺から仕入れる採れたてのイチゴなど果物が人気の大型エリア
金立SA上り線（佐賀市金立町）	レストランでは有明海の海産物を用いたメニューがあり、観光客に人気
大村湾PA下り線（長崎県東彼杵町）	「恋人の聖地」に認定されたPA。ドッグランも併設されている
北熊本SA下り線（熊本市北区改寄町）	カプセル入り玩具の自動販売機100台以上をそろえた「九州ガチャポン館」が12月にオープン
別府湾SA上下線（大分県別府市）	上下線を歩いて行き来することができ、高台からは別府の街並みを一望することができる
霧島SA上り線（宮崎県小林市）	チキン南蛮やマンゴーを使ったお土産品など、宮崎をまるごと楽しめる
桜島SA上り線（鹿児島県姶良市）	九州最南端に位置するSA。飲食コーナーでは、鹿児島特産の黒豚料理が充実している